

経営比較分析表

岡山県 新庄村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	96.51	1,890

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
961	67.11	14.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
912	27.02	33.75

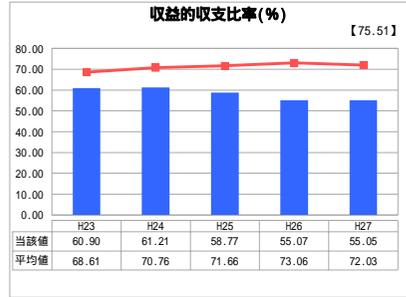
グラフ凡例

■ 当該団体値(当該値)

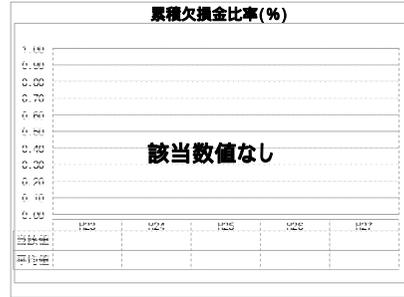
○ 類似団体平均値(平均値)

【】 平成27年度全国平均

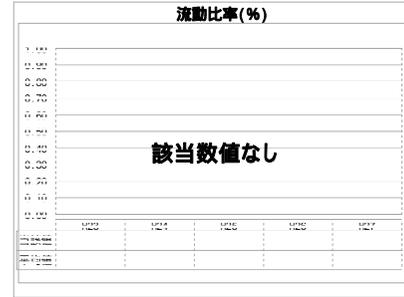
1. 経営の健全性・効率性



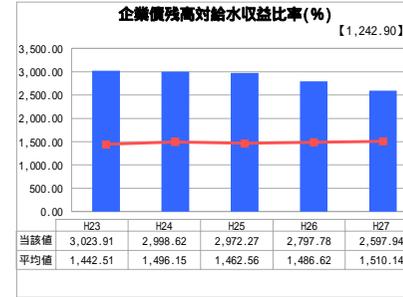
「単年度の収支」



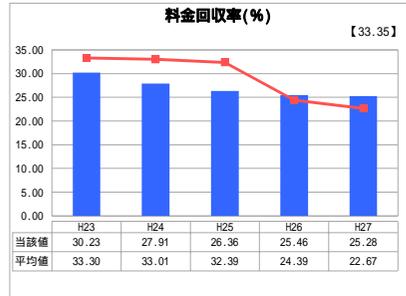
「累積欠損」



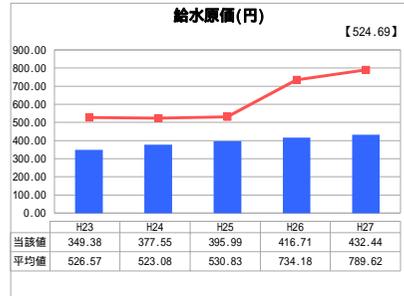
「支払能力」



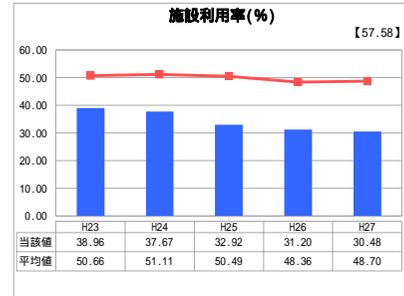
「債務残高」



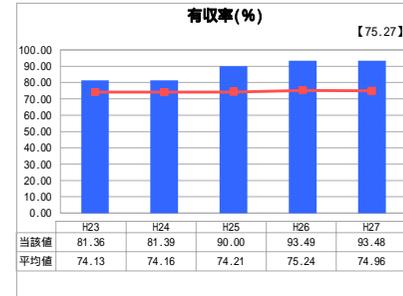
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新庄村簡易水道事業の経営状況は、単年度では赤字となっている。また、企業債残高対給水収益比率は、類似団体より高い傾向がある。これは、簡易水道の統合事業等を行ったため、水道事業の収益に対して企業債残高が高くなっているためである。統合事業、未普及地解消事業等は、平成28年度に終了するが、28年度の企業債が加算されるため今後企業債残高は増える見込みである。料金回収率は類似団体の平均値に近い値となっている。給水に対する費用についてはバランスが悪く、給水収入と一般会計からの繰入で賄っている。新庄村簡易水道事業は、上記のとおり給水収益では賄えていない状況である。企業債の償還等もあり、一般会計からの繰入はやむを得ない状況であるが、今後健全な企業会計とするため、料金収納率の向上、料金改定の検討、経営の効率化を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

老朽化した管路の割合は9%弱で低いが、中心部の本管については対応年数には達していないが更新の検討をする必要がある。

全体総括

新庄村簡易水道事業の経営について、今後、料金収納率の向上、料金改定の検討、経営の効率化を図り、企業会計の健全化を進める。また、老朽化対策等については、水道事業の経営バランスを考慮し、更新を進めていく。